

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0272701038		
法人名	社会福祉法人恵心会		
事業所名	グループホームしろやま		
所在地 (電話番号)	〒039-0112 青森県三戸郡三戸町梅内字桐萩162-8 (電話) 0179-20-0260		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年2月26日	評価確定日	平成22年4月15日

【情報提供票より】(平成 22年 2月 11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての 階 ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	4,500 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(2月 11日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 84.8 歳	最低 70 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	三戸町国民健康保険三戸中央病院、田島医院、石亀歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

役場など町の中心部に近い住宅街にあり、近所の住民と自然に挨拶や会話を交わす関係づくりに努めている。ホールは、採光が良く、入居者は広い窓から眺める田んぼや畑作業の風景を通じ、四季を感じることができる。家族のように1つのテーブルをみんなで囲み、穏やかな笑顔で過ごされる姿が印象的であり、外部評価の結果並びに地域や家族等から受けた苦情や意見、要望等に対して、ホームはもちろんのこと、法人全体で改善に取り組む体制ができており、関係者一丸となってサービスの質の向上を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	面会のない入居者の生活状況等について、手紙で家族等にお知らせし、報告の機会を新たに設けた。不透明ガラスが入った引き戸から、脱衣所の様子が外に伝わらないように、出入口にのれんをかける等、評価結果を法人全体で検討し、改善がなされた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員が自己評価の項目を確認し、見出された課題について、改善にむけた取り組みにつき検討している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	ホームの生活状況等を報告し、日ごろのケアの取り組みについて理解や周知を図り、ホームに対する意見や要望について改善すべく、サービスの質の向上に活かせるよう努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10,11)
	面会、運営推進会議、行事等の機会を通じ、意見や要望を出してもらえるよう積極的に働きかけている。また、オンブズマンを活用し、外部への相談の機会を設け、出された意見や苦情については、職員全員で話し合い改善にむけて取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	近隣住民と、自然に挨拶や会話を交わす関係作りを努めており、地域の催し物や保育園の行事への参加は恒例となっている。地域交流は十分行われている。今後は地域貢献の取り組みとして、事業所としてできることがないか話し合い、可能であれば実践することを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念のもと、ホーム独自の地域とのふれあいを大切に、安らぎのある生活を求める理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は詰所内に掲示され、週1回朝礼時に唱和し意識づけをしている。入居者が安心して生活できるよう、迅速に対応するために、必要なことは随時話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	近隣住民とは、自然に挨拶や会話を交わせるような関係作りに努めており、近所の人が生花や果物を持参し、気軽に立ち寄ってもらえるような近所付き合いをしている。また、町内で開催される催し物等があれば、積極的に参加し、地域の保育所との交流は毎年の恒例行事となっている。		隣近所、地域との良好な付き合い以外に、地域貢献の取り組みとして、事業所として出来ることがないか話し合い、実践されることに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の内容は、職員全員が確認している。外部評価の結果についても、職員全員に周知を図り、改善に取り組んでいる。また、法人内で運営している別のグループホームについても、評価結果の改善課題を共有し、共に検討し、双方の質の向上に努めている。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催し、ホームの状況等の報告や、出席者との情報交換等が行われ、出席者から意見が出された場合は、運営に反映させている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営やサービスの課題解決のために、随時相談・連絡を行っているほか、毎月、市町村担当者のもとへ出向き、ホームの状況等を報告し、連携を図れるよう努めている。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について内部研修で取り上げ、理解が深まるよう努めており、必要時には利用に繋げる体制が整えられている。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で学ぶ機会があり、日ごろのケアにおいて、不適切な対応がなされていないか注意を払うよう心掛け、気がついたときにはその都度話し合える雰囲気がつくられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約について理解・納得が得られるよう、契約書・重要事項説明書について、また入居者や家族等からの質問に対して、時間を掛けて丁寧に説明している。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>広報誌を年4回発行し、ホームでの生活状況や運営体制等についてお知らせしている。個々の暮らしぶりや健康状態等については、家族等の面会時にお知らせし、面会がなかった場合は、手紙でお知らせしている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>オンブズマンが月1回来訪し、入居者の相談を受けている。来訪後は、ホーム内に相談内容の概要と次回来訪の日程を掲示し、家族等への周知を図り、苦情・意見を受けた場合は、改善に取り組み、運営に反映させている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者に与えるダメージを考慮し、異動は出来るだけ行わないようにしている。異動してきた職員については、早期に馴染みの関係が築けるよう、関係作りに重点を置ける職員体制がある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が不安に思っていること、勉強したいと要望のある内容を盛り込んだ内部研修を、年間予定を立て、毎月行っている。</p>		
14	18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所と入居者交流会の機会を設け、運営体制等の情報交換を図り、新たな気付きが得られ、改善に繋がられるような取り組みを行っている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>職員やホームに馴染めるように、利用開始前に、職員が入居者宅に出向いて行ったり、数日間、ホームに家族と通っていただく等の工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>縫い物や編み物等、入居者が得意なことや、昔ながらの調理方法を職員が教えてもらったり、畑と一緒に作業をする等、共に過ごす関係が築かれている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>					
<p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一日の入居者の状況を記録し、日常の会話や行動から、暮らし方の希望や意向の把握ができるよう努めている。また、担当者を中心に、職員全員で話し合っている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族等の希望や意向を面会時に確認している。本人、家族等の思いを基に、担当職員が個別プランや検討議題を出し、職員全員で話し合い介護計画を作成している。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1回、定期的に見直しを行うと共に、変化が生じた場合は、随時カンファレンスを行い、新たな介護計画を作成している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人の希望する外出や必要な受診に、家族等が対応できない場合等の支援を行っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を、事業所の都合で変更することはない。他科受診やかかりつけ医の変更が必要な事情が生じた場合は、本人及び家族が納得して受診できるよう、十分な説明に努めている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人が重度化した場合や終末期にホームでできること、できないことについて説明し同意を得ている。入居後は、必要に応じて家族や医療機関へ連絡、相談し、方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自尊心を損ねるような言葉掛けや対応がされていないか、日々職員間にて確認し合っている。記録等の個人情報についても人目に触れないよう取り扱いに配慮している。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで役割を持って過ごせるように日課は設けず、本人自らの行動を引き出せるような言葉掛けに努めている。また、好きな色や柄、服装を把握して、その人らしい装いで過ごせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理や食事の準備・後片付けを日常的に入居者と職員が一緒に行っている。献立は法人内の栄養士が作っているが、入居者の希望に合わせて、変更は柔軟に行っている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日が決まっているが、希望や必要に応じていつでも入浴できる体制を整えている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>裁縫、編み物、畑仕事等、好きなことをして楽しめるように、希望に沿った支援が行われている。天気の良い日には、外の空気に触れられるよう、散歩の支援が行われている。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの希望や必要に応じた日常的な外出の支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の事業所共通のマニュアルがあり、職員が閲覧できるようホームに設置している。また、内部研修を行い、身体拘束について理解を深めている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は施錠していない。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者と職員は、月1回の避難訓練を行っている。また、年1回の消防訓練は近所の住民も参加して行われている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を記録して、個々の摂取状況を把握している。食事回数を分けたり、好みの食べ物や飲み物で食欲を促す工夫をし、適切な栄養摂取や水分確保がそれぞれに合った方法で行われている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内の事業所共通の感染症予防マニュアルがあり、月1回、衛生委員会の話し合いにより、感染症予防のための情報を得たり、医師へ相談をする等して、予防に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールは温かみのある装飾が施され、植木鉢やソファが置かれ、居心地の良い空間がつけられている。採光も時間によってカーテンで調節されている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族等へ働きかけ、入居者個々にあった温かみのある暮らしやすい居室づくりに努めている。</p>		

 は、重点項目。